



地中海の風光と温暖な気候に恵まれるアンタルヤはトルコのリビエラと呼ばれる観光地として目覚ましく、ホテルやマンションが林立する活況を呈している。しかし一步郊外に出ると貧しさが色濃く表れる地域が広がる。

アンタルヤ郊外西部:クサントス村(上・右)

女性が牛を引いて朝から野良仕事に出かける。一方で男たちは日がな一日、木陰でチャイ(トルコのお茶)を飲みながら雑談をして過ごす。村で働くことは先ずしない。イスラムの男尊女卑の典型だ。昔から戦い以外には男はすることがない。と決めているらしい。そのそばの食堂で小学校帰りの子供たちに逢った。顔を見るとDNAが入り組んでいることがわかる。いろいろな種族が混じっているのだ。でも子供はかわいい。貧しくとも母親は娘のためにおしゃれをさせようと、襟のレース飾りに特徴を出しているのがうれしい。



アンタルヤ郊外東部:アスペンドス遺跡(左)

古代ローマの置き土産の円形劇場で、保存状態が世界最高と称される建造物である。遺跡としての範疇ではなく、日常的に劇場として使用されている。客席はすべて大理石で、使い込んでいるだけにつるつるだ。舞台正面の壁面は凝灰岩で組まれている。劇場音響の原則は、舞台から出た音をいかに前に戻すかである。野外劇場には天井がないので、観客席をすり鉢状にしてその対応を図っている。客席の勾配がきついのはそうしたわけがあるのだ。その形状から残響時間が長く音の響きが良い。最上部のアーチの列柱がまた見事で、貴族や市民の劇的な出合いを古代には随分と演出したことだろうと想像される。この日も夜に演奏会が催されるとかで、舞台の支度に余念がなかった。